
京成本線の連続立体化と沿線街づくりに関する提言

市川市は、東西方向に走る鉄道や道路を骨格として都市が発展してきましたが、首都圏における旺盛な住宅需要の圧力は、モータリゼーションの進展とともに街全体を南北方向に押し広げ、その市街化があまりにも急激であったために道路整備などの社会資本整備が追いつかず、現在では慢性的な交通渋滞や防災性の低下、商店街の衰退などといった都市の利便性や安全性にかかわる様々な問題が顕在化しています。

このような中、京成本線は市川市の市街地中心部を東西に貫き、しかも地表を走ることから、南北道路交通の遮断や地域分断などの大きな問題が生じており、また沿線（市川・八幡地区の中心市街地を除く）は、川の流れと黒松の緑に恵まれた閑静な住宅街を形づくっているものの、入り組んだ狭隘道路には多くの自動車が入り込み、安全な歩行空間の不足や防災対策の遅れなどが市民生活上の課題となっています。

将来の市民が真の豊かさを実感し、安全で快適に暮らせる街をつくるためには、これらの問題をいつまでも放置しておくことはできません。しかし、単に京成本線と道路を立体交差化すればすべてが解決するわけではなく、道路整備や都市空間の創出などハード面の整備をはじめ、都市交通の円滑化や街の魅力づくりの推進など、ソフト面での対応も重要であり、京成本線を取り巻く街づくり全体の問題として、一体的かつ総合的に対応を図っていく必要があります。

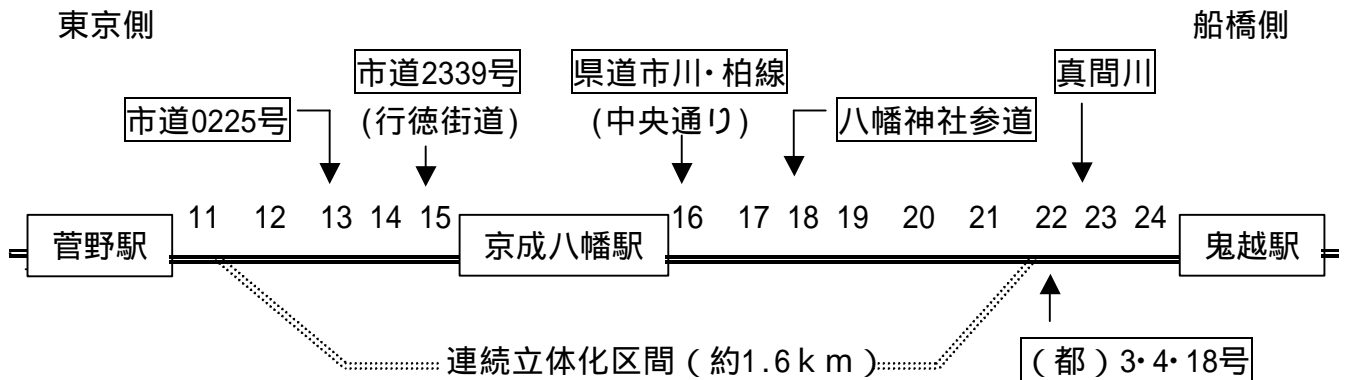
環境に対する考え方や財政上の問題など、一朝一夕には答えが出ないような難しい課題がある中で、京成本線の整備を行なうことは、これを契機とする沿線住宅街の居住環境の改善や中心市街地の活性化はもとより、交通事故の減少や環境負荷の低減、生産性の向上やバリアフリーの推進など、より広範な都市問題の解決や都市機能の向上に寄与する可能性が大きく、この意味では、費用をかけながらも最大の効果を上げる工夫と市民の理解と協力を得る努力が、今後の施策の要点と言えます。

本懇話会は、このような課題認識と『市川市基本構想』における基本理念に則り、将来都市像を踏まえた、街づくりの基本目標となる『安全で快適な魅力あるまち』を目指すため、京成本線の整備方策及びこれと一体的な街づくりのあり方について、次の提言を行います。

1 提 言

- 1 京成本線の市内区間4.5kmのうち、京成八幡駅を中心とした1.6kmの区間を優先的に連続立体化し、あわせて幹線道路の新設・改良による交通混雑の緩和と市街地再開発事業等による駅周辺地区の活性化及び住環境の改善を推進すること。
- 2 連続立体化の方法としては、沿線の良好な居住環境や緑豊かな景観等に配慮し、地下方式を採用することが望ましい。ただし、事業化にあたっては、事前に費用対効果や技術的な問題及び市民や事業者の理解を得ること等について十分な検討を行なうこと。

【連続立体化の区間】《 は除去が可能になると考えられる踏切》



- 3 上記以外の区間について、特に市川真間駅周辺は、JR市川駅北口周辺地区との一体的な整備計画を具体化のうえ、将来の街づくりの方向に整合するよう道路と京成本線の立体交差化の方法を検討すること。
- 4 事業中の各都市計画道路については、引き続き単独立体交差化（アンダーパス化）を進め、あわせて既成市街地の安全な歩行空間の確保と防災性の向上に寄与する関連道路や公園等の整備を行なうとともに、黒松の積極的な保存や植樹を行なうなど、良好な住宅地の景観の保全と創造に努力する。

2 今後の課題

本提言にもとづいて、京成本線の整備と沿線の街づくりを進めるうえで、今後対応が必要と考えられる課題を提示します。

(1) 広く市民の理解を得ること

京成本線の連続立体化をはじめ、街づくりに関連する多くの事業に対して多額の資金投入を行なうことについて、広く市民の理解と協力を得ることは最も重要な課題であると考えられます。

そのため、これらの事業が今後の良好な街づくりを進めるために必要かつ有効な手段であることを市民が深く認識する必要があり、直接事業の影響を受ける沿線住民はもとより、計画段階から広く市民一般に対して情報開示を行なうとともに、関連事業が多岐にわたる可能性があることから、合意形成に向けた調整機能の強化が必要となります。

(2) 専門家による詳細な調査・検証等の必要性

今後、立体交差化事業を具体化するに際しては、事業の効果を最大限に活かすため、事業手法の特定を目的とした技術的な実現可能性や事業費軽減策等の検討、また様々な安全性に配慮した道路(側道を含む)や駅周辺の整備計画及び鉄道立体化後の地上空間の利用方法等、多岐にわたる事業のプログラムやスケジュール調整などについて、専門家による詳細な検討・調査を行なう必要があります。

また、街づくりの観点から“ひと”の交流や賑わいの創出に視点を置いた歩行空間と回遊動線のあり方等について、さらに交通混雑の緩和や沿線の環境に対する便益や評価などについても、あわせて検討・調査を実施する必要があります。

(3) 総合的な街づくり事業を効果的に実施すること

京成本線の整備とあわせて街づくりを効果的に実施するためには、複数の街づくり事業を有機的に組み合わせながら進めていく必要があることから、課題解決のための総合的な街づくりの必要性を明確化するとともに、国の『まちづくり総合支援事業』制度等を有効に活用し、道路や市街地整備等のハード的事業のほか、街に魅力と潤いをもたらす景観や文化資産などを十分に活かすためのソフト的な事業の推進も重要と考えます。

なお、沿線の街づくりに関して、別記『京成本線沿線の街づくりに関する基本方針(案)』の提案を参考にいただければ幸いです。

(4) 積極的な財政対応を図ること

厳しい財政事情の中で、市川市が京成本線の整備や沿線街づくりを行なうために莫大な資金を投入することはたいへん困難な課題であると考えられますが、市の基本目標である『安全で快適な魅力あるまち』を実現するため、これらの事業を最優先かつ重要な施策として位置付けるとともに、長期的な視野での整備効果を見極めながら積極的に財政対応を図る必要があります。

(5) 事業者との協議・調整の問題

連続立体化事業の計画・実施については、事業主体となる千葉県や鉄道事業者である京成電鉄株式会社と十分な協議・調整を図る必要があります。特に街づくり上の必要性や費用負担等に応じたメリットの考え方については、長期的な展望のもとで理解・協力が得られるよう、積極的に働きかけを行なう必要があります。